

和歌山県教育委員会

資料提供

令和6年8月27日 14:00

高野山麓の文化に出会う

特別展「聖地巡礼」第Ⅱ期「神仏・祖師の住まう山」が展示替え！

和歌山県立博物館で開催中の展覧会、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」第Ⅱ期「神仏・祖師の住まう山—高野山上・山麓の宗教文化—」は、前期と後期で1点を除くすべての作品を入れ替えます。

展示のテーマは、前期の高野山上から、後期は高野山麓へ。丹生都比売神社をはじめ、高野山麓の寺社でおこなわれていたさまざまな祭礼や仏事にまつわる資料を展示します。今日に伝わる装束や仮面、仏像から、広大な高野山麓が抱いた祈りのいとなみがうかがえます。後期の展示資料は全55点（重要文化財3点、重要文化財(附)1点、和歌山県指定文化財10点、紀美野町指定文化財1点、かつらぎ町指定文化財8点、九度山町指定文化財・有形民俗文化財4点）です。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」

和歌山県立博物館では、平成16年（2004）7月の世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録から20周年を迎えることを記念し、特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」を開催しています。第Ⅱ期「神仏・祖師の住まう山—高野山上・山麓の宗教文化—」は、弘法大師空海が開いた高野山の信仰がテーマです。

【会期】後期：8月31日（土）～9月29日（日） 展示日数26日

※休館日：月曜日、ただし9月16日（月・祝）、23日（月・祝）は開館し、各翌日の9月17日（火）、24日（火）は休館。

【主催】和歌山県立博物館

【展示会場】和歌山県立博物館 1階企画展示室（〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14）

【開館時間】午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【入館料】一般520円（420円）、学生310円（250円）

※（ ）は20名以上の団体料金。高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、県内の学校に在学中の外国人留学生は無料。

※ミュージアムトークや博物館講座など、関連イベントの詳細はチラシをご覧ください。

担当課：県立博物館 学芸課

担当者：島田和 電話：073-436-8670（代表）

メール：admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp

後期のみどころ1 丹生都比売神社のあざやかな舞楽装束

高野山麓の天野の里に鎮座する丹生都比売神社（天野社）は、高野山の鎮守、丹生明神の本社です。天野社では、高野山の僧侶も関わって、様々な祭礼がおこなわれていました。【写真1】は、舞楽装束類のうちの一つ、薄紅地薔薇反橋文様水干です。童子の舞に用いられたものとみられ、かわいらしくあざやかな薔薇の文様が目をひきます。一具の袴とともに展示します。

本展では、丹生都比売神社の祭礼のようすを伝える資料をご紹介します。



【写真1】
重要文化財
薄紅地薔薇反橋文様水干
（舞楽装束類のうち）
金剛峯寺蔵

後期のみどころ2 高野山麓の仮面芸能

高野山の麓の村々には、それぞれの鎮守社で多様な芸能がおこなわれていたことを示す資料が遺されています。なかでも、猿楽や田楽などに用いられたとみられる中世の仮面群が多く伝わるのは大変貴重なことです。

【写真2】猿楽面（翁、黒式尉、父尉、延命冠者）は、高野町細川の八坂神社から近年発見された、翁の舞に用いられる面です。仮面は、面をつけることで、神や人ならざるものの出現を演出するもの。個々に豊かな表情をもち、神秘的な仮面の表現をご覧ください。

このような祭礼や芸能の文化は、高野山麓の集落において今日も引き継がれています。人々の暮らしと祈りの営みが、高野山を支えてきたのです。



【写真2】
猿楽面 八坂神社蔵
（右上：翁，左上：黒式尉，
右下：父尉，左下：延命冠者）

後期のみどころ3 高野山麓の古仏がお出迎え！

空海による高野山の開創は、平安時代初期、弘仁7年（816）にさかのぼります。高野山上にはもちろん、高野山麓にも、その長い歴史を物語る仏像が伝来しています。

【写真3】は、平安時代の9世紀につくられたとみられる天部立像です。展示室では、魅力的な古像の姿をたっぷりとご覧ください。



【写真3】天部立像 大福寺蔵

みどころ4 常設展も衣替え！コーナー展示

「学問の山・高野山」開催

この特別展の後期期間中、常設展示室「空海と高野山」・「熊野詣」のコーナーにおいて、弘法大師空海や高野山に関わる資料13件19点を展示します。